

Uganda便り⑤ ～ウガンダから～

2017. 5. 23
青年海外協力隊 田中美千恵

こんにちは。第5回目は私の活動先について紹介したいと思います。

以前の便り③で私がいるマスリタ職業訓練校について少し紹介しましたが、今回はその中でも私が活動している服飾コースについて紹介したいと思います。

～生徒～

学年 \ コース	2年コース	3年コース
1年生	3人	2人
2年生	4人	8人
3年生	—	3人

昨年は2学期からや2学期後半から入学してくる生徒もいたので今年も新入生がまだまだいるかもしれません！？

2学期は3ヶ月だけのコースも開かれます。昨年は15人ほどいたので今年は何人の生徒が来るのかドキドキでもあります

※5月の最終週から2学期がはじまります

男子生徒・・・3名

女子生徒・・・17名



～教室・授業～

生徒に個人個人の教科書は無く、先生のノートが生徒の教科書となります。そのノートは先生が学生時代や教員養成校での授業をノートにとったものです。先生がノートを写し間違えていたら、今の生徒も間違えて覚えしまいます。伝言ゲームのようになっています。

授業の内容は理論と実習があります。私は日本の服飾の専門学校を卒業していますが日本よりも理論の時間が多くあると感じます。日本ではさらっと流したり、飛ばしたりする理論も細かくやっています。良いテーラーとはどんな人か。や道具の名前をしっかりと覚えさせたりしています。

日本ではオーダーメイドは少なくほとんどが工場生産され販売されています。ウガンダではオーダーメイドの服が多くあります。街のテーラーさんはウガンダの伝統衣装であるゴメスやアフリカの生地を使用したドレス、学校の制服などを作ったりしています。日本のやり方は工場向きであるのに対しこちらはオーダーメイド向きだと思います。

日本の服飾専門学校や会社ではmmまで細かく計算や製図して、きっちりと裁断し縫製に入っていましたが、ウガンダでは1、2cmの誤差も気にせず作りながら調整していく。といったかんじです。

(先生のデモンストレーション)



(教室風景)



～道具～

足踏みミシン

日本ではあまり見かけませんが、ウガンダでは学校だけでなく街のテーラーさんも使用しています。電気式のミシンもありますが停電がよくあるので電気を使わないミシンが多く活躍しています。学校のミシンも全てこの足踏みミシンです。



炭を入れて使うアイロン



～作品～



授業では
制服・スカート・ワンピース・
エプロン・帽子・バックなど
作ります

～裁縫クラブ～

生徒の空き時間や放課後、土日（多くの生徒が寮で生活しているため土日も開催したりしています）を利用して裁縫クラブをはじめました。シュシュ、ブックカバー・ポーチ・コースターなど小物を製作し販売しています。今は主に、首都にある JICA オフィスの来客や隊員向けに作っていますが、今後現地のお店にも置いてもらえるよう活動していきたいと思っています。作った物によって生徒にポイントをあげ、そのポイントと生地やファスナー等と交換できるようにしています。授業で使用する練習用の生地が用意できない生徒もいたりするのでこのクラブを利用し、生徒の意欲・技術向上を目指しています。



読んで下さりありがとうございます。それではまた。。。。

（訂正）

便り③で紹介した時間割りを間違えて記載していました。正しくは下記ようになります。お昼休みは1時間半ほどちゃんとあります！

8：00～10：00	1時間目
10：00～10：30	休憩タイム
10：30～12：30	2時間目
12：30～14：00	昼食
14：00～16：00	3時間目

（給食のポシヨと豆のスープ）

